

# 令和二年度 奈良県知事賞

## 「今と増税」

西大和学園高等学校 一年 志村 美乃里

今、私達は新型コロナウイルスという恐怖と共に生活している。いつ収まるのか分からない感染症。だが、これが収まったからといって私達が恐怖から解放されるわけではない。これによる、経済への損害の代償が必要になる。

二〇一九年十月に消費税が増税された。この増税の使い道は、これまでの「高齢者中心」とは異なり、子育て世代へと拡大した「全世代型」の社会保障制度に向けられた。国の財源の安定化、現役世代の負担の軽減等において得策だと思われる。だが私にとってこの増税はいわば他人事だった。確かに百円ショップに行くとき消費税として払うお金が多くなった事は実感できる。だが「政府が決めたこと」としてこの増税・税金に距離を感じていた。

しかし、今のコロナ騒動。私も学校が休校となり事態が生活に侵食していることで、やっと身近なものとして税金を捉えた。

政府から、特別定額給付金として十万円やアベノマスクの配布があった。これらを配布するための財源はどこにあったのか。はっきりと語られていなかったが、やはり増税することが予想される。増税と聞いて良いように思う人はどのくらいいるのだろうか。私は物を買ったと余分に払わなければいけないことをすら嫌なのに、それが増えるなんて…と考えてしまう。だが、今回の政府が実施したコロナ対策による増税へは賛成の意を示す。

理由は二つある。一つ目は政府の行ったコロナ対策に評価すべき部分が多かったからだ。確かに批判する意見も多くある。だが、コロナ患者を受け入れる病院の経済的支援や病が悪化し集中治療室入院する際に適用される診療報酬額を二倍に増やしたりと、コロナに感染してしまった後の保障がされていた。コロナにかかってしまった人を誰か一人でも多く救いたいという思いは私達も同じだと思う。だから、こうして対策をしてくださった代償として増税することは賛成できる。

二つ目は日本の経済をまわすために必要だからである。コロナ騒動で思うように営業が出来なかったり客が来ない企業が多くあったと思う。客自身も思うように外出できなかったこともあり、お金を外に流通させることが難しかった。だが、コロナが収束すれば一気にお金は流通するだろう。不況の場合は減税すると学校では教わったが、今回の騒動では国がお金を欲している。増税して国により多くのお金を集めるべきだ。そこで私達が買い物という行動で応える事がまた国の力になると思う。

税金とは私達が集め、そして私達のために使われるものだ。なぜ税金を集めるのかを知らなければただお金が奪われていくだけである。国が私達にしてくれていることの有り難さを税金を通して実感する必要があると思う。